

【令和5年度第2回鎌倉市青少年問題協議会議事概要】

日時：令和5年10月4日（水）

会場：鎌倉商工会議所301会議室

出席者：加藤会長、角田委員、市川委員、下山委員、池田委員、田中委員、林委員、石井委員、小熊委員、山田委員

事務局：小林課長、田中係長、下釜職員、西田職員

冒頭、各委員から自己紹介を行った後に、議事に入った。

議事の概要は次のとおり。

加藤会長：今回、初めて方も多く、いろいろわからないこともあるかと思う。途中でわからないことがありましたら、いろいろ聞いてほしい。

青少年問題協議会は、鎌倉市の子どもたちの教育や福祉も含めて、鎌倉市で進めている事業内容や方針を説明してもらい、それについての意見を我々が出し、改善すべきことは改善してもらいたいと思います。会議にはさまざまな立場の代表をする方たち、学校やPTA、教育委員会、それから学生を含めて参加していただき、話し合っている。

今日の議題は盛りだくさんだが、一つずつ丁寧に進めていきたいと思います。皆さんが日々感じている率直な意見を発言していただき、活発な中身を作り上げていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは最初に資料の説明からお願いします。

<西田職員：会議成立の旨、報告・資料確認>

加藤会長：よろしいですか。初めての方は少し混乱するかもしれないが、これらの資料について説明があるので、その資料の中身について疑問に思ったことなど、いろいろ質問等を出していただければと思う。

それでは最初に「子ども・若者育成プランの中間見直し」についての報告をお願いします。

<田中係長：「子ども・若者育成プラン」中間見直し説明> 資料2

加藤会長：ありがとうございます。今説明があった「子ども・若者育成プラン」の2ページ目、「プランの目的」に「青少年の居場所づくり」がある。

子どもたち若者たちの「居場所づくり」をしようと、鎌倉に若者たちが集まれる場所をできるだけ作っていかうということ。また、その右に記されている「社会参画の推進」というのは、子どもたちが、ただ大人たちに面倒見てもらうというだけではなく、自分たちで「鎌倉を作っていく主人公として立ち会う」ということ。「青少年の居場所づくり」と「社会参加の推進」の二つをこのプランの大きな柱にするということが、この計画が作られたときからの大きな課題となっている。そして、下の方にプランの対象と書いてある、19歳から30歳未満を鎌倉市では「青少年」と言っています。

今日これから他にも議題があるが、「子ども・若者育成プラン」のことを踏まえながら、皆さんで話し合えるといいと思います。

次に「フリースクールの補助金制度」の現状報告について説明をお願いします。

<西田職員：フリースクール補助金制度説明・報告> 資料3

加藤会長：この制度は県内で鎌倉市が初です。フリースクールに通っている子どもたちのご家族に対し、最大1万円まで補助金を出すということ。

この9月から申請が開始したが、9月1日から現在まで、すでに29名ほど申請がありましたという。まだこの制度を知らない人もいるかもしれない。

では、皆さん何か質問等はあるだろうか。

初めて参加された委員さんはこの制度について知らないかもしれないが、この協議会では昨年度からこの制度を含めた、「青少年の居場所づくり」について話し合っ、実現したことである。

角田委員：私も初めて知った。この制度は、保護者の所得制限等はないのだろうか。

西田職員：所得制限は設けていない。

林 委員：上限となっているが、これは一律なのだろうか。

西田職員：申請額の3分の1で、上限1万円で補助する。

角田委員：このためにこれだけ必要だから、助成してくださいという申請の仕方なのだろうか。

西田職員：補助金の対象者には、3ヶ月ごと年に4回、実際にかかった利用料の実績報告を提出していただき、それを審査する。申請があった利用料の額の3分の1が1万円以上であれば、1万円が補助金額となる。

加藤会長：生徒児童生徒1人につき上限1万円、例えばひと月に3万円の利用料がかかったら1万円出ると、こういう形になる。

新しい制度のため、使い勝手が悪いとか、こうしてほしいとか、あるいは制限をつけた方がいいとか、色々な意見が出てくるかと思う。

この補助金の「対象者」というのが、手元の資料に1から7まで記載があるので、誰でもできるということではない。

この条件全て当てはまる人ということなので、少し厳しいかもしれない。この辺の内容についても、ここを削った方がいいとか、こういうことを増やして欲しいとか、今後の状況を見て、作っていくということになるだろう。

対象者になりそうな人には、市の方から施設も含めて周知がいくと思うが、学校の先生方も知っておいた方がいいというふうに思う。

林 委員：学校関係で少し気になるのは、対象者の4番「在籍学校と認定施設の相互に情報を共有する」というところの「承諾」というところ。私も勉強不足で申し訳ないが、だれがどこのフリースクールに通っているのかなど、学校も知っているのだろうか。

池田委員：通っている生徒は、本校の場合は大体、保護者から連絡を受けて把握している

林 委員：そうすると、学校とフリースクールと相互にどちらからのアプローチも可能になるということだろうか。フリースクールに通っていると出席扱いになるのだろうか。

西田職員：出席扱いになるフリースクールに通っているかというところは、要綱で定めていない。

池田委員：学校としては、フリースクールから連絡があり、出席日数を送ってくれるところは出席扱いにしているが、そういう連絡が取れない、情報共有ができない部分については、出席にはしていない。この上限1万円の補助金が出ている人が通っているフリースクールを、必ず出席

扱いにするということではない。

加藤会長：そういったこととは切り離し、フリースクールに通う児童生徒を経済面で支援していこうという制度ですね。この制度はまだまだ試行錯誤していくことが多いと思う。

補助制度を知らなかった人が出てきたら、それをどうやってもっと知らせていくかという課題が次に出てきて、そして学校と施設が連携を取ろうとなってくると、フリースクールと学校の先生が連絡取り合っていくことでだんだん深まってくると思う。

下山委員：施設に通っていることを学校が知らない場合、保護者が直接言うことはないのか。

16の施設と学校がこの子こうですよって言いに行き、この1万円ですか3分の1、施設料の3分の1が支払いますよということで・・・。

加藤会長：保護者も申請できるものということですか。

西田職員：こちらの制度は、保護者が申請するものです。

下山委員：4番もありの保護者もありっていう事ですよ。

「児童の様子等に関する情報について、在籍学校とフリースクール等が相互に情報共有することを承諾する保護者。」と記載があるが。

加藤会長：それも条件の中に入ってる。

池田委員：フリースクールに通っていることを学校に秘密にしたいという子は、本校にはいないと思う。だが、例えば転入生は前からフリースクールに通っていて、前の学校には行っていない、この学校にも行かないが、ただ引っ越したので在籍だけさせて欲しいという方については、比較的そういう情報共有は少ない。そういう子がいることも事実。この施設に通っていますということを親の方から言ってくれるが、フリースクール側からも連絡があることはある。市内の施設は、ほとんど、この日に誰が来て、どういう様子だったかどうか連絡をいただいている状況でもある。

小林課長：少し補足をさせていただくと、補助金の申請は保護者様からいただくもの。その申請の要件の1つとして、「認定施設」に通っていることと定めている。

どんなフリースクールに通っても補助金が受けられるというわけではなく、「認定施設に通っていること」が重要な要件の1つ。

そのため、この補助金制度には、申請があった保護者が補助対象者かどうかを審査する前に、施設の方から認定の申請をいただいたものを、市が認定するという作業が事前に含まれている。その鎌倉市の認定施設になるための要件のなかに、例えば今、下山委員の方からご指摘のあった、「市長または学校長の要請により、利用している不登校児童生徒に関する必要な情報を提供するなど、児童生徒が在籍する学校と連携できることができること。」を認定施設の要件としている。

そのため、こちらが認定する施設は、必ず何かフォーマットのようなものを使って、学校と何かしら連絡を取り合っているということを、先に確認をさせていただいている。

加藤会長：つまり、既に学校との連携が取れている施設に通っている生徒の保護者が、補助の対象者ということである。施設、学校、保護者が連携をとっていくことが、補助金制度の重要な要件となっている。これらの条件の中で少し改良していくことが、もしかしたら今後起こるかもしれないが、まずはこのような形で鎌倉市はスタートしたということをご承知いただきましたと思う。

それでは、次の議題について説明をお願いします。

<下釜職員：わかたま現状報告> 資料4

加藤会長：「わかたま」という言葉は「若者のたまり場」という意味ですね。

今の説明について、意見があればどうぞ。

市川委員：こういう場所があるということを、保護者として連絡を受けた記憶がなかった気がするよう
な。こちらは学校等でお知らせとかはあったのだろうか。

池田委員：確かに行政センターに行ったときに、わかたまの存在をはじめって知ったかもしれない。放
課後、勉強できる居場所があるというのは知っていたが、特に学校から連絡を受けたとは覚
えがないような気がする。もし記憶違いであったら申し訳ない。

池田委員：もしかしたら、全員配布じゃなくても、ポスターとかであるかもしれない。

田中委員：ポスターを送ってもらい、それを学校の方で掲示している。今はもう、パソコンを1人1台
学校で持っているので、そのなかで配信するという事も可能。

加藤会長：これもやはり、学校と連携するとすごく広がると思う。

下山委員：私は行政センターをよく利用するので、子どもたちの勉強している姿はよく見かけるが、こ
れを学校全部に周知しても、スペースが小さい自習室なので、皆が座れるのか分からない。

田中委員：高校については、市外に住んでいる生徒もいる。例えば小田原から通学している生徒がわか
たまを利用することはあまり考えられないので、利用できる子が利用するという形でいいと
思う。

加藤会長：家庭で勉強が出来ない子だとか。

田中委員：この資料を見ると10代後半がかなりどこの箇所も多い。

もっとこの自習室が浸透してくと、高校生が夏休み中だとかに、集中したりするスペースと
して、使わせてもらっているのではないかと思う。

池田委員：近くのに住んでいる子どもに浸透しているかもしれない。

下山委員：ちなみにここに来ている子どもの達が勉強を教えてくれる人が欲しがっていた。

加藤委員：大学生に来てもらうとか。

角田委員：大船行政センターの一角にわかたまがあることは知っているが、それがどういう場なのかと
か、どういう方が利用するところなのか、若者のための居場所だと明確に記しているものあ
るといいと思う。資料を見ると70代80代の方も利用されてるとということなので。

どういう趣旨で設けているのかが分かればいいかなと思う。

あとは、ロビーの方で大人たちが話していると、静かにしてくださいというような声をかけて、
少し陰悪そうな雰囲気がある時がある。

学習センターの会議室は結構時間の区分が厳しいので、入室までの時間ロビーで話ながら待
っている人がいると、それが気になるという意見もある。その辺りは工夫が必要なのかなと
感じる。

加藤会長：利用する人が多くなってくると寄せられる要望が多く出てくると思う。「居場所」が必要だ
が、ここだけでいいのか、あるいはどこかそういう場所をもっと広げていく必要があるとい
う風になってくると思う。

今日のところは、全体の状況を皆さんも知っていただいて、これをどうやって広げていくか、
定着していくか、ということを進めていきたいと思う。

加藤会長：続けて議題の2の中の「鎌倉青少年会館リニューアルの実行委員会の結果報告」について説
明をお願いします。

<下釜職員：鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会の結果報告の説明> 資料5

加藤会長：我々のテーマは「青少年たちの居場所作り」。

居場所づくりにあたって、現在、鎌倉青少年会館を若者たちが使いやすい場所にするためにはどうしたらいいだろうか、当事者たちの意見を聞こうということで、市の方でいろいろ計画立ててもらい、実際に実行委員会ができた経緯がある。

今回、この会議に青少年の市民委員として参加している小熊さんも、実行委員として参加していたとのこと。

この協議会、今までは全員大人の委員で構成されていた。全国的に見てもこういった協議会に若者が参加しているというのは珍しいと思う。青少年の意見を反映する機会はまだまだ少ないが、その中でも、鎌倉は率先して進めて行こうということで、昨年度のこの協議会で、青少年の委員を入れることが決まった。

小熊さん、鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会に参加した時の感想等は何かあるだろうか。

小熊委員：私は、小学校から高校まで、周りの環境や友達がずっと一緒だったので、他校の子と関わる機会が凄く少なかった。会ったことのない人たちとこういうふうにし合ったりできるということが、すごく新鮮で面白かった。

加藤会長：まず一つね。違う学校の生徒さんたちや高校生たちとも会って、話し合えたということが新鮮だったとのこと。ありがとうございました。

話し合った中身なんかとか雰囲気など、他に何か印象に残ったことはあるか。

小熊委員：実際に青少年会館にどんなものを配置するかを最終日に考えた。どんな風にリラックスできる場所にしていくか。Yogibo を置いてみたらいいじゃないとか、カードゲームを置いてみたらいいのではないかという意見を出した。

加藤会長：なるほど。やはりリラックスできる場所というのは、みんな求めているのか、意見が多かったのだろう。なるほど。こういうのが必要だという意見が実行委員会で実際に出たということ。他に小熊さんに聞いてみたいことはあるだろうか。

実行委員会では、中高生のみなさんは活発に発言をしていただろうか。

小熊委員：はい。

加藤会長：そうですか、それはいいことですね。こういうことがまたこれからできるといいと思う。

下山委員：鎌倉青少年会館はよく利用するが、リニューアルについて少し理解ができていないところがある。

大研修室も小研究室も、こういうふうにはずっと1年間青少年の居場所として使っていくのだろうか。二階堂は交通の便が悪い。そして鎌倉青少年会館の下の階は老人の集うところ。ここはどちらかというと、お年寄りが多くいらっしやるところで、この資料を見ても若い方はあまり利用していない。それなのに大研も小研も調理室も全部変えてしまうのは、どうなのだろうか。今現在鎌倉青少年会館を利用している、青少年以外の人はどうなるのだろうか。近所の人のご理解はいただいているのだろうかということも含めて、凄く心配なところかなと思う。

下釜職員：全くおっしゃる通りではある。交通の便が悪いのは、一番の課題であり、そこについては正直、まだクリアしてない。

この大研・小研が主に利用されている時間帯は、午前からお昼過ぎまでなため、これはまだ企画段階だが、16時以降の使われていない時間帯を、青少年向けに開放しようというようなことを考えている。利用者への説明については、今年度から徐々に始めていく予定であり、実際にどこまでやれるかは、まだ今の段階では申し上げられないが、ここに向かってやって

いきたいというのが方向性となっている。

下山委員：音楽なんかは防音装置つけないと、ご近所から苦情が来ってしまう。

加藤会長：確かに。

下釜職員：丁寧にやっていかないといけないなというふうに思っていて、皆様から意見をいただきながら進めていけたらと思っている。

市川委員：逆に若い方がたくさん来てくれたら、お年寄りも嬉しかったりするのではないかな。

角田委員：「交流」ということだと、高齢者も結構積極的になると思うが、若者だけそこでたむろしてみたいに見られてしまうと、やはりうまくいかないかもしれない。多世代交流みたいに進めていけば、高齢者の方も受け入れられるようになると思う。

「若者の居場所」ということになってしまうと、ちょっと高齢者はマッチしないかもしれない。

加藤会長：カタリバではどうだろうか。若者たちが集まっているいろいろな体験やっけてこられていると思うが、今日の話聞いていかがだろうか。

山田委員：カタリバでは全国で居場所作りをやっているが、カタリバもまだ多世代との交流ということは、始めていない。理由としては、今おっしゃっていただいたように、ハードルがかなり高いということと、また、多世代交流という形にしてしまうと、誰のために何をするのかというところが多分ぶれてくると思う。そうなってしまうと、お年寄りのためのユースセンターを作る、みたいな形になってしまうのかなと思うので、まず、入りとしては「子どもの居場所」をしっかり作るというところに、フォーカスするのが大事かなと私としては思う。

加藤会長：確かに。まず目的は、青少年、30歳未満と少し年齢に幅があるが、若者たちが集まりやすい場所をまず作り、そこで何をしたいかというのを十分に聞いた上で、それを一つずつ進めていくこと。新しい施設を作るより、今ある既存の施設を、青少年会館をまずは「青少年のための場所」として、きちんと整備してみたらどうかというのが、この協議会で案が出たというスタートがある。

下山委員：もう1つ質問したい。玉縄青少年会館はどうなるのだろうか。あそこはバス1本でも行けるし、大船駅からも歩いて行ける。ジュニアリーダーズクラブもあそこを本拠地のようにしている。色々な道具も置いてあるし、楽器もやれる、部屋も多くて和室もある。玉縄青少年会館は条件がそろっているかと思うが、こちらは怎なのだろうか。

小林課長：鎌倉には青少年会館が2ヶ所ある。今ご紹介があった玉縄と鎌倉（二階堂）。玉縄は元々、県の施設だったが、鎌倉がそれを県からいただいた。築が昭和47年ぐらいだったと思う。大分古い建物である。

鎌倉の青少年会館は、1階に「フレンドリー」と呼ばれている高齢者施設が一緒になっていて、平成13年にできた建物。それでももう20年以上は経っている建物だが、玉縄に比べたら比較的新しい建物である。実は玉縄青少年会館は、「鎌倉市公共施設再編計画」という全体の公共施設の整備計画で、廃館にするというような計画がある。

一応は閉館の計画はある施設のため、今回は対象とはしていない。利用者の数でいうと、玉縄の方が便利なので、利用者も玉縄の方がずいぶん多いのは事実である。

また、玉縄では卓球開放も行っており、青少年の利用の数も鎌倉よりは高い。鎌倉青少年会館を見たときに、中学生高校生の利用が少なく、青少年会館という名前だが、中高生が行けるところという認識がない。まず、あそこは自分たちが行く場所ではないと思っている。

青少年会館は、もちろん条例に基づいて設置されていて、その趣旨は「青少年の交流や活動をするための場所」というふうにはいるが、現状、本来の趣旨からずれた使い方とな

っている。鎌倉青少年会館は二階堂にあり、実際に青少年が本当に来るかどうかという問題はあるが、まずは二階堂周辺の中高生が、自分たちが行ってもいい場所だという認識をもってもらいたい。あとは徐々に「青少年の居場所」になればいいなという思いがある。

今回の議題では、リニューアルの実行委員会の結果報告までで、来年度の予算がどうなっていくか、これから論議をしていくところであり、これからどうなるかわからない部分でもある。下山委員からご指摘があったように、地域の方のご理解だとか、今の貸館という状態でサークル活動をしているご高齢の方もいるため、その方々にどういうふうにご理解を得ていくかというところは、これからの課題であり、こうなりますよと、今はまだ言えない状況。ただ、こういうふうな方向性があるということ。青少年にもっと使ってもらえるようにということで、これからもそういった現状の課題は、今利用されているご高齢の方にも、青少年会館の趣旨として、もっと青少年の方に使ってもらいたいという気持ちはわかっていただきたい。予算のこともあるし、地域の方との関係も調整をしながら、協議をしながら進めたいと思っている。

加藤会長：予算のことも含め、相当難問だと思うが、議会も含めて、動き始めたようだ。

子どもを中心とした新しい社会を作らないと、子どもたちの数がどんどん減ってしまうということ。日本では、不登校の子どもたちが約 30 万人という大変なことが起こっている。子どもたちの居場所がなくなってきている。

下山委員：玉縄青少年会館でとりあえず青少年の居場所づくりを進めてはどうだろうか。音楽ができる環境も整っているし、会長がおっしゃったように早急に居場所を作っていかなければということであれば、便が良くて集まり易い玉縄青少年会館に青少年の居場所を作り、そこが成功した上で二階堂の鎌倉青少年会館にも居場所を作る方が、理解が早くできるんじゃないかと思う。

加藤会長：皆さんが玉縄青少年会館は必要な場所で、何とか復活してほしいという要望でまとまるのなら、この意見を鎌倉市で検討していただけたらと思う。

今日は、鎌倉青少年会館を本来の青少年会館の趣旨に合った使い方ができるように改善してほしいということでまとめとする。

次に、議題 3 の青少年の現状についてだが、今日のさまざまな話し合いを含めて、皆さんがそれぞれの現場で感じていることなど、自由に意見交換をしたいと思う。

<議題 3：青少年の現状について>

林 委員：今のお話だと、やはり現状貸館として使われている青少年会館を変えていくのは難しいのではないだろうか。現在の利用者に理解を得るというのは、非常にハードルの高いことで、やはり物理的に何かを変えていかないと、周りの理解が得られないと思う。そうするとやはりお金、予算を取る必要があると思う。下山委員が言ったとおり、成功例を見せてからご理解をいただくのが良いと思う。今まではお年寄りを中心に「お年寄りだけの居場所」として充実し始めたところに「青少年の居場所」が加わってくることは、かなりお年寄りには戸惑いが多くなることも出てくるのではないか。特に「音」なんていうのは非常にセンシティブなところだと思う。今の話し合いは希望も含めてしまっているので、現実との差がとても大きく、私達が話したことは何だったのだろうかということになってしまえば、非常に残念だと思うので、現実とすり合わせながら、現状だとどこまでできるかという話も是非していきたい。

加藤会長：小熊さんは今日初めて参加して、皆さんがいろいろな話をして報告をうけて、何か感じたこ

とはあるだろうか。

小熊委員：私は小学校のときからずっと私立だったので、公立の子は放課後とか、近所子ども達と遊んでいて、凄く羨ましかった。私の場合は、学校が終わったらそのまま家に直帰で、周りで遊ぶ子がなくて、それはもう今もずっと続いているので。周りに同年代の知り合いが全然いないので。同年代で、学校以外の人と関われる場って凄く少ない。公立の子だけでなく私立の子も混じって関わりを持てる場があるといいなと思う。私立学校は市内だけではなく、色々な場所から来てると思うので、なかなか難しいかもしれないが。

加藤会長：学校以外のところで同年代の人と関われる場があるといいということ。
学校の先生方はなにか感じていることはあるか。

池田委員：学校から近くにそういう場がないと、中高生は時間が足りないからなかなか行きづらいと思う。例えば文化部が青少年会館で、なにか催しが週に何日かあれば、子どもたちが行くと思うし、卒業した後も逆に何かあったら尋ねてくるようになったりするのではないか。だがやはり学校の近くにないと難しいかと思う。二階堂だと、例えば二中と二小だったと思うが、なかなか子どもたちは、放課後から時間が少ない。塾に行っている子が多いので、忙しい。今後、文化活動的なことをやれば、子どもは集まるかなとは思う。二中・二小・清泉の子くらいしか鎌倉青少年会館に行かないかなとは思うが、それだけでも、そういった居場所があれば、卒業した後も行きやすくなる。

わかたまでも、勉強を教える人がいれば、おそらく利用者がもっと増えると思う。地域に1つずつでも居場所があればいいのかなと思う。

加藤会長：地域とどう繋ぐか、青少年会館も地域との繋がりが大事。

池田委員：中高生は忙しい。また、鎌倉市は場所的な問題をクリアするのが大変だと思う。

加藤会長：市川さん、PTA ではこのような話は出ることはありますか。

市川委員：PTA としては特にないが、私が聞いて思ったのは、学校にも塾にも行き、忙しくしている子にとっての居場所とは、それはもう塾だったり、学校だったりであると思う。みんな結構満たされていると思う。どちらかという和学校に行けないだとか、どこに行ってもいいかわからない子。学校は面白くないから、途中で早退して町をうろついているような子、そういう子に対してニーズがあるのかなと思う。

そういう方については、ある程度距離があったとしても、その場所に対して興味さえ持てれば、多少遠くても利用するのではないかと思う。まずは試験的にでも取り組みを始めていただいて、そこで出た結果をどんどん改善していくというのを実直にやっていくのが、一番いいのかなと思う。

距離があったとしても、そこに行けば何か得られると思えば、多分時間を使ってでも利用していくと思う。

下山委員：他校の人と関わる機会がないと言っていたが、ジュニアリーダーズクラブというものもある。色々な学校の生徒が、それぞれ大学生がリーダーとなり、グループ活動をしている団体。みんな活発で、今はメンバーが21人いる。すごく多くのことを活発に、今は子どもキャンプに向けて話し合いをして、もうジュニアが全部仕切って動いてくれている。団体が活発になってきているので遊びに来てください。

加藤会長：あとは、先ほど市川さんが言っていた困窮世帯の子ども。学校にも行けなくて苦しんでいる子どもたち。問題を抱えた子どもたち・ご家族の居場所などは、やはり民生委員の活動の中でも悩まれたりするのだろうか。

角田委員：生活困窮の家庭とは結構接触がある。先ほど紹介があったフリースクールの補助事業について

て。民生委員は市内に120人程いるので、予めお知らせいただければ、民生委員が地域を回ったときにこういう制度について紹介ができるので、このような新しい制度ができたときは、こちらにも説明があるといいなと思った。

加藤会長：市の方から説明に行ってもいいかもしれない。

あとは、山田委員は今日の会議に参加して、いろんな課題が見えてきたかと思うがどうだろうか。

山田委員：二つ観点があるなと思う。

まず1つ目は、市川委員が言っていたように、不登校気味の人や生活困窮的な子たちの居場所作りというところ。2つ目は、もっと何かチャレンジしたり、探求したり、例えば音楽やスポーツをしたりだとか、オープンな場所を求めている子たちの居場所づくり。

今回、鎌倉市としてやりたいという方向性が、どちらなのかというのは、明確にしておく必要があるかなと思った。両方の子たちを対象にするとすると、それはそれで難しいと思う。そこはまず大事なポイントかなと感じた。

加藤会長：確かにここはまだ明確にはできていない。大事なところ。

小林課長：青少年課で進めていく事業としては、開かれた population な場所を想定している。また、その場所は、あまり支援感を出しすぎないほうがいいと言われている。支援感を出すと、本当に支援が必要な子は逆に離れてしまうと言われている。むしろ population な場所で、人間関係や信頼関係ができたところで、ふと出てくるものをいかに掴めるか。そこをいかに離さずに、さまざまな相談の場所に繋げられるかというところ。そういった立ち位置で考えている。困窮世帯を主な対象としているような事業は他課が既に行っている。例えば勉強ができる場所や食事の提供など。そのため、青少年課ではそこを主な対象として事業を進めていくわけではない。

加藤会長：生活支援・学習支援という制度ですね。

小林課長：はい。また市では、ヤングケアラーやヤングだけではないケアラー全体の支援をどうしていくか、条例制定に向けて動いている。実際に今困っている方にターゲットを絞ったような施策も今後充実をさせていきたいということは鎌倉市全体としての目標ではある。

加藤会長：山田委員が言っていた1つ目の観点。もう1つの観点の、オープンな場所求めている子ども達向けの居場所づくり。オープンな居場所を作って、その中から課題を抱えている子どもたちについて対応していくと。

山田委員：立地的なところと言うと、鎌倉青少年会館の前にも大学キャンパスがあったような気がするが、

小林課長：鎌倉女子大学二階堂学舎がある。

山田委員：その辺と連携とかできたらいいのかなと少し思った。

加藤会長：放課後かまくらっ子推進部会の委員長が鎌倉女子大学の小泉先生なのだが、大学生や「鎌倉てらこや」とも繋がりが出来始めている。

きっと鎌倉では高校生の存在がキーなのだろう。

田中委員：鎌倉青少年会館リニューアル実行委員会の結果報告を受けて感じたのは、青少年会館のリニューアルはすぐには実現しないかもしれないが、中高生自ら手を挙げて集まりに参加し、みんな話し合っって課題解決に向けて取り組んでいく。参加者の話を聞いて、また参加者が増えてきて、違った視点も見えてくる。そういうことを続けていくのが大事だと思う。学校の授業でもブレインストーミングをすることがあるが、こういったやり方で本音が出てくることもあるし、繋がりができて、実行委員会の集まり以外でもみんな遊ぶようになったりする

ると、ますます良い関係が作れていくと思う。是非、こういう形で繋げて、継続して行って欲しいと思う。

あとは、周知の仕方について。わかたまの認知度のこともあるし、フリースクールの補助金制度についても周知が必要。高校は鎌倉市外の子もいるので、条件に当てはまる人は一部分かもしれないが、一部の条件が当てはまった人たちにしっかりと伝達していくことが大事。先ほどのジュニアリーダーについても、知っていれば参加できた子もいたかもしれない。知らないから参加できない、そこにたどり着かないということが多いため、少し周知の方法を考えていけばいいのかなと思う。ボランティア関係についても同じことが言える。

こういうことが活発にできる状況になってきたので、周知をきちんとしながら進めていくことが大事かなと思う。

加藤会長：今の田中先生のお話で、やはり周知を丁寧にというところがとても大事。

他にはなにかあるだろうか。

石井委員：私は二階堂に長く住んでいるが、青少年会館のリニューアルが二階堂の話なのだのと、実は思っていた。私自身は、あまり青少年会館を利用することはないが、あの場所が青少年会館という名前だったことを、今思い出した。昨年度、鎌倉市少年会館でこの青少年問題協議会を実施したが、そのとき初めて2階に入り、ここはこんな雰囲気だったのだろうかと思った。実は社会教育委員会の方で、十数年前に、多世代交流が何かできないかと盛んに言われていた。各地域で多世代交流について活動しているところもあるかもしれないが、鎌倉青少年会館が完全に青少年の場所となると、今まで会館で活動していた方々の居場所がなくなってしまうので、そこもうまく混ぜられないかと思う。

加藤委員：両方の面がある。

昨年度の青少年問題協議会は、委員の皆さんにも鎌倉青少年会館を見てもらいたいという思いがあり、あそこを会場にした。

青少年会館を何とかできないだろうかということで、今回青少年課の方から案の提示があったという経緯がある。少しずつ実ってきたというか、問題協議会にも若い代表者、小熊さんのような方が参加いただくとか、カタリバの方にも参加いただくとか、こういうふうに動きが出てきた。

下山委員：鎌倉青少年会館は二階堂にある、つまり第二中が近い。二中に在籍している子ども達が利用する可能性が高い。実行委員会のメンバーが6人なのは少なく感じるので、二中にお声がけをして、生徒に来てもらう事は出来ないのか。

池田委員：学校がやることなのかどうかは少し疑問がある。学校側から生徒に行きなさいと言えば行くのだろうが、子どもたちも困惑してしまうかと思うので、やはり公募はしてほしいなと思う。

下山委員：二中はコミュニティスクールをやっているのだから、そこで声をかけるのもいいのではないかなと思う。

池田委員：平日であれば可能だと思うが、土日となると、職員の休日勤務も今問題になっているので。

下山委員：先生は来なくてもいいかもしれない。

池田委員：部活がなくて行ける子が行ければいいが、なかなか条件にあうか子がいるかはわからない。そういった活動に積極的なリーダーシップがある子は、部活動でも活躍のシーン多かったので、少し難しいかもしれない。

石井委員：横浜市では、各地域はコミュニティセンターがあり、そこでは地域のボランティアさんが、塾に行けない親子を対象に、学習の面倒見ていたりする。下山委員が言ったように、そういう地道な地域の協力が得られればいいなと思う。

加藤会長：横浜は各地域にケアプラザを作って、お年寄りから子どもたちまで全部が来れるようになっている。多世代交流も含めながら、子どもたちが安心して行けるような場所を青少年会館に作れるかが課題だろう。

今日はいろんな課題が出たが、次回まで頭の片隅に置いておいていただいて、本日の会議は終了したいと思う。また次回の問題協議会ではよろしく願いしたい。

以上